第２学年Ｃ組　国語科学習指導案

日　時：１０月３０日（金）
　　１３：００～１３：５０
場　所：２年Ｃ組教室
授業者：上條　亘

（１）単元名　人間のきずな「ヒューマノイド」

（２）ねらい

主人公の発言の意味を、登場人物の言動や過去の出来事を根拠として捉える活動を通して、表面的な言葉の裏に隠された、過去への後悔やそのことからの解放、安堵の思いに気付き、作品の内容を解釈することができる。

（３）本時における国語科で目指す生徒の姿

・課題に対して追究する場面で、「叙述」「これまで学んできたこと」「自身の経験」「他者の考え」などを根拠としながら、自分の考えを変容させていく姿。
・意見を交流する場面で、他者の考えや根拠などを聞き取り、自分の考えと対比したり、交流後に再構築したりする姿。

（４）展開（第４時／全６時）

過程	学習活動	研究に関わって
導入 見通しをもつ 課題を解決する 自己の学びを振り返る	**○単元課題を確かめる。** 単元課題：この作品は作者のいう『読者の目線が３度上がる』につながっているといえるか？ ここまでの学び（「過去と現在を結び付けて読むこと」が、言動に込められた意味や心情を考えることにつながること）を確認し、本時の課題につなげる。 **○課題をつかむ。** 「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか」とあるが、何が違っていて、「僕」はそのことをどのように感じているのか？ **○課題を追究する。** ・「何が違うのか」「僕はどのように感じているのか」という２点について追究する。小集団（３～４人）を基本隊形しながら、１人での追究、他者と対話を通した追究特設スペースでの追究を選択し、課題に対する追究を進める。 **≪追究を進めた生徒の考えの例≫** ⑴「聞いていた話」とは，中学時代にタクジが話していた「もし僕がヒューマノイド…理解できるようにする」のことで，３０歳になった日のロボットは、僕が恥ずかしがっているのに指をさして手をふってきたから「話と違っている」。 ⑵その配慮のない行動に対して、「言ってたことと違うじゃないか」と心の中で抗議し、文句を言っていると考える。 ※⑴過去と現在の矛盾の理解・⑵「文句」をいう表面的な感情（⑵＋言葉の裏の本音） ≪見取りについて≫ Ｂ：「本当に嫌がっているわけではない」「ホッとする」＝『あのときはごめん』 ①②の両方を過去と現在を正確に関連付け，言葉の裏（本音）まで解釈できている。 **○『深めの課題』について、考えを深める。**※学習状況によっては，この発問を行わない。 『１５年ぶりに再会して、みんなの前でこんな大恥をかかされたら、タクジに対して本気で怒るか、気まずくて下を向いたり逃げ出したりするはず。なのに、なぜ主人公は心の中でこんな言い方をしたのだろう』 ・１５年間ずっと抱えていた後ろめたさからの解放 ・言葉にできないほどの安堵と照れ隠し　・・・など →一言では表せない「複雑に入り混じった感情（葛藤）」まで叙述を根拠に解釈する。 ※「なぜそう考えたのか？」「○○さんの考えについてどう考えるか？」など補助発問をする。 **○個人で、本時の学習を振り返り、ワークシートに記載する。** 下記の❶❷について、ワークシートに記入する。 **❶課題に対する考えについて：課題に対する最終的な考えを書きまとめる。** 僕の発言には、「タクジが過去に『恥ずかしい気持ちを理解できるロボットを作る』と言っていたのに、現在の僕が恥ずかしい思いをしていることを分かっていないじゃないか」という思いが込められている。そこが「違う」ということ。そして、この一言には、恥ずかしさだけでなく、再会できた嬉しさやホッとする気持ちなど、複数の感情が混じっている。特にタクジに対して「謝りたい気持ち」がある。過去のタクジとの別れ、現在の「胸の奥に重苦しいものを感じた」などから、過去を振り返り，再会したタクジの様子から後悔から解放されたのだと思う。 **❷本時の自分の追究について「主体的な学び」ｏｒ「協同的な学び」のいずれかで振り返る。** 例（「主体的な学び」を選択した生徒） 最初は、最後の一文から「僕」はタクジに不満を感じているのだと思った。しかし、過去のタクジとの出来事と現在の「僕」の様子をつなげて読むと、不満だけではなく、ほかの気持ちも込められているのだと分かった。物語の結末を正しく読み取るには、それまでの出来事と結び付けて考えることが大切だと分かった。	**【研究内容１－①】** ・探究（疑問解決）型の単元課題を位置付けた単元構成にすることで、生徒が問いをもち、追究の原動力にできるようにする。 **【研究内容１－③】** ・個にあった追究方法を紹介することで、生徒が学び方の見通しをもてるようにする。 **【研究内容２－②】** ・ＩＣＴを活用して、課題追究中の生徒の良さとその理由を価値づけることで、生徒自身の学び方の改善に生かせるようにする。 **【研究内容２－①】** ・指導事項と言語活動の特徴から、つけたい力を明らかにして評価規準を設定することで、短時間で学習状況を見取り、方向付けられるようにする。また、コーディネートにつなげるようにする。 **【研究内容１－②】** ・『深めの課題』を提示し、他者の考えについて共有したり、考えの良さについて考えたりすることで、ねらいに迫れるようにする。 **【研究内容２－②】** ・生徒が「最終的な（再構築した）考え」と、「考えを広げたり深めたりすることに効果的だった学び方」を残せるシートを活用し、本時の学びを振り返り、蓄積できるようにする。 **【評価規準】** **思考・判断・表現Ｃ（１）イ** 主人公の発言の意味を、登場人物の言動や過去の出来事を根拠として捉え、主人公の後悔や安堵の気持ちに気付いている。 **【評価方法】** ・記述内容・発言内容・行動観察